

(1) 自らの命を守り抜く安全・防災・健康教育	成果と課題	改善策
<p>①時間厳守や体幹保持など「きびきびした生活」、美化作業、環境整備など「すがすがしい環境」、挨拶や敬意など「さわやかな仲間」をはじめとして、安全安心で規律ある教育環境を確立する。</p> <p>②安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時応ずる。</p> <p>③計画的な健康教育により、食・睡眠・交通をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災や国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する能力を育成する。</p> <p>④家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所を把握や予告なし避難訓練、自転車保険への加入等を通して安全に対する意識の高揚を図る。</p>	<p>○チャイム着席でなくチャイムスタートの試みを行った。</p> <p>○食後の運動や、気温の高い時間帯の運動への配慮を行い、生徒観察が徹底できた。</p> <p>○校外での下校指導を充実させた。</p> <p>○避難訓練の実施を3回できた。そのうち1回は抜き打ち避難訓練ができた。</p> <p>○危険箇所を予測・判断し安全に避難することができた。</p> <p>●抜き打ち避難訓練を含め、授業時間を確保する。</p> <p>●安全点検後の修繕箇所の修繕を進める。</p> <p>●交通安全に対する生徒の意識が低い。</p>	<p>①避難訓練を授業時間以外（清掃時等）で行う。</p> <p>②点検箇所の優先順位をつけて事務との連携を図る。</p> <p>③自転車安全点検を家庭で行うなど、啓発を進める。</p>
(2) 誇りを感じる学校・学級集団	成果と課題	改善策
<p>①学校生活の課題について、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、話し合い、合意形成、意思決定して改善することを通し、課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。</p> <p>②生徒会・教科係が生活・学習の諸課題について協力・協働して改善する活動を通して、学校内外の生活・学習マネジメント能力を育てる。</p> <p>③学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標をもち、自己を生かし、協働して課題解決したりする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>④ノー部活デー（木曜日と土日いずれか）による心身ともゆとりのある中で、効率的、効果的に部活動をを行い、自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。</p>	<p>○学活や総合、道徳で、グループ活動での話し合いや意見の共有の場が多くあった。また、授業で主体的、対話的な授業を取り入れられている。</p> <p>○委員会活動や教科係を通じて、呼びかけや連絡などを行い、生徒自らが主体的に動いていた。</p> <p>●生徒・保護者アンケート「楽しく学校生活が送れている・行っている」は高いが、どちらかというと楽しくないと回答した約10%の生徒にも注目していかなければならない。</p> <p>●授業の中で「個人で考えるところ、ペア・グループで話し合うところ、それを発表するところ」があると97%の生徒が回答しており、協力して課題解決したりする実践的な態度を育てる基盤がある。また地域ボランティア、環境美化作業や学校運営協議会などにも生徒会中心に参加することができたが、生徒・職員の負担が多かったという課題がある。</p> <p>○年度当初の職員会議で部活動運営について確認し、おおむねノー部活デーを実施しながら、年間の部活動運営を行うことができた。また、特別に活動する日については職員会議等で確認を取り、共通理解を図りながら、実施することができた。</p>	<p>①課題解決力や人間関係形成・社会参画する力をつけていくため、行事を精選しながら、計画的に進めていく。</p> <p>②学校生活をより充実したものにする取り組みを生徒が中心となって、積極的に考えていく。</p> <p>③生徒が落ち着いて学習に取り組めるように年間行事の見直しをおこない、スリム化していく。そのために学校改革推進委員会と協議をしていく。（環境美化作業は、今年度2回→来年度1回）</p> <p>④ノー部活デーの設定だけでなく、部活動の在り方については今後さらに検討し、さらにはその変更について保護者をはじめ、地域に周知する。</p>
(3) 将来や社会の糸口をつかむキャリア教育	成果と課題	改善策
<p>①将来の職業構造の変化や新産業の創出も踏まえつつ、学ぶことと将来や社会とのつながりの中で自己の生き方を考え、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。</p> <p>②生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよきを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し、キャリア形成に資する個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。</p> <p>③体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲、態度を養う。</p>	<p>○夢プランへ参加することで、市内の高校の情報や様子が分かり、進路に対する意識が高くなった。学活や総合を利用し、進路決定の流れを確認することで、目標を明確にし、計画的に進めることができた。</p> <p>○進路の手引きを作成し、それに基づいて1年後の進路決定をイメージすることができた。進路通信を発行することで、進路について考えていく啓発になっている。高校の情報やオープンハイスクールの日程などをこまめに伝え、生徒には多くの情報を伝えることができた。</p> <p>○生徒会役員を中心に、各ボランティアに参加して活動することで、社会の一員として人の役に立つなどの充実感を得られた。</p> <p>学校で行われた、地域の方との奉仕作業では、部活動単位で参加することができ、生徒達が一生懸命に作業する姿が見られた。</p>	<p>①進路について考えていく中で、受動的な場面が多く、生徒が能動的に調べ、情報共有する場を設定する。</p> <p>②キャリアノートの有用な活用方法を考えていく。2年生の早い段階で、進路について考えていく取り組みが必要だと考える。</p> <p>③情緒・自閉などの特別支援学級の生徒の進路決定を早めに考えていく必要がある。</p>
(4) 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善	成果と課題	改善策
<p>①授業スタンダード(予習・目標理解・個人思考・集団思考・振り返り)に基づき、各教科等の見方・考え方を鍛えながら「個」と「集団」を思考が行き来する指導を通し、「主知的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>②知識・技能が他教科等や生活で活用できるよう、見通しのある予習、振り返りのある復習を含む家庭学習や放課後学習の充実を図る。</p> <p>③新学習システムを活用した少人数指導や補充的な学習、発展的な学習など、個に応じ個が生きる指導内容・方法の授業改善を進める。</p> <p>④特別支援教育を中核に据え、教育支援計画における合理的配慮、及びユニバーサルデザインを全教職員の共通理解のもと組織的に推進し、豊かな人間関係づくりとともに伸びる力を育成する。</p> <p>⑤授業時数を確保し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現時的な諸課題に対応する資質・能力を教科横断的な視点で育成する。</p> <p>⑥読書への興味を深めるとともに、創意工夫して読解力向上の取組を推進する。</p>	<p>○「篠中スタンダード」に基づく授業を各教科担当が意識して行っていることで、授業一コマの流れや自学に見通しをもって取り組むことができた生徒が増えた。</p> <p>●問題解決能力等の学習を各教科の中で取り組んでも、なかなか教科横断的な視点にまではいっていない。</p> <p>●家庭での学習時間が少ない。家庭学習については、目標時間の確保やその質の向上が必要である。</p> <p>○特別支援教育に関して、生徒の「見え方」「聞こえ方」といった認知特性についての理解と支援の仕方について研修をすることができた。</p> <p>●「個別的教育支援計画」について、年度当初に、保護者と相談しながら作成することができた。内容について全体で共通理解する方法を工夫し、活用できるようにすることが課題である。</p> <p>●図書館だよりの発行や中央図書館からの学年貸出の利用により、朝読書の時間がなくなつて以降も、生徒から本への興味の高さを感じられた。一方、蔵書を利活用した授業の実践は少なく、読解力向上への取組はわずかしか進められなかった。</p>	<p>①授業開きの時期に、各教科での家庭学習の取り組み方について例を提示したり、学習そのものに苦手意識を持つ生徒に対して、その習熟度に応じた段階的な学習方法を一緒に考えたりし、習慣づけることを最初の目標にする。家庭への働きかけを考える。</p> <p>③特別支援教育に関して、認知特性や障害特性、それに対応する支援のあり方などについて研修を実施し、共通理解を図ることで、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の内容共有を端的にできるようにする。</p> <p>④授業のユニバーサルデザイン化を一層すすめる。（次年度、伝達講習を実施）</p> <p>⑤授業に利活用できる蔵書を、教科担当者に周知できるように、機会を設ける。生徒に対して、個人の読書に留まらずにブックトークなどで周りや本を通じて交流する機会がもてるように、声かけを続ける。</p>
(5) 存在感や成就感を大切に生徒指導	成果と課題	改善策
<p>①生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた開発的生徒指導を進める。</p> <p>②学年担任制による多様な相談体制、ICTによる迅速な調査、スクールカウンセラーとの連携など、ガイダンスとカウンセリングの双方から、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・対応する。</p> <p>③生徒指導方針、いじめ防止基本方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携しケース会議等による組織的・計画的な個別支援を行う。</p>	<p>○道徳授業など日々の学習活動の中に、対話を重視した活動を取り入れることで、生徒同士の関係を高める活動を行うことができた。</p> <p>●情報共有を行いながら、チームとして生徒に関わることができたが、不登校生徒への未然防止や関わり方について検討が必要である。</p> <p>○計画的な外部機関の連携に加え、生徒指導事案などが発生した際には、必要な機関と連携を図り、即座に対応することができた。</p> <p>●いじめ対応については、生徒を巻き込んだ活動を実施することができなかった。教職員としては、いじめ対応について研修するなど対応について共通の基準で行動することができ、いじめ事案発生時には、各方面と連携し、対応することができた。</p>	<p>①生徒指導については、基本的なルールを徹底し、安心・安全な学校生活に向けて、共通認識を持って、1年を通してやりきる。</p> <p>②いじめ対応や情報モラル教育についても来年度は、生徒会とタイアップした活動をする。</p> <p>③情報モラルについては、教職員側の知識が後進いになっているので、先行知識として研修を行う。</p>

<p>④学校基本方針や生徒会「いじめノックアウト宣言」によりいじめの定義や実態を啓発し、家庭・地域・関係機関と連携したいじめ対応を進める。また、いじめを積極的に認知し、早期解決を図る。</p> <p>⑤情報機器の使用時間や使用目的について、「情報機器取り扱い三箇条」など生徒会活動や関係機関との連携によりコミュニケーションや個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させる。</p>	<p>○●毎学期情報モラルに関する研修や講演会を実施するなど、生徒・保護者・地域に対し、啓発活動を行った。しかし、情報モラル3ヶ条を有効に活用することができなかった。</p>	
(6)豊かな人間性・社会性を育む道徳教育、人権教育	成果と課題	改善策
<p>①他者や自己との対話による「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。(評価研究を含めた授業研究の充実、ローテーション授業の実施 保護者・地域への公開)</p>	<p>○●本年度より、道徳科における評価がはじまったが、研修を行い学んだことを基に、校内である程度統一した評価の基準を示すことができた。ローテーション授業を行うことで、学校全体で道徳の授業の充実を図ることができた。ローテーション授業を今後も行っていくので、授業の持ち時間の見直しが必要。教科書に加え、県や市からの指定教材があることを十分に共有できないまま、年間計画を各学年で作成した。</p> <p>○本年度の体験型人権学習活動は、生徒会や各学級員を中心に全生徒に広く参加を呼びかけて活動することに決定し合計11回取り組むことができた。「災害ボランティア研修会」50名、「夏休み人権学習ツアー」31名、「被災地ボランティア」28名の生徒が参加できた。また、「人権啓発動画作製」に6名の生徒が取り組み、「人権フェスタ」の際には「人権ミライエ プロジェクト」の活動報告として人権啓発動画を展示会場にて上映。また、「1日人権擁護委員」として6名の生徒が活動した。「人権通信」を12回と号外2回の計14回発行して、人権教育の啓発に努めた。今年度はオープンで参加を呼びかける方法をとったが、今後も活動方法の検討を慎重に行う必要がある。また、来年度は、講師としてさらに多くの教職員が参加する機会を設定したい。</p> <p>○体育祭でのデカンショ踊りやデカンショ祭りの準備ボランティアなどを通じて、地域に根ざした活動や地域貢献活動を行うことができた。</p>	<p>①道徳科の評価について、さらに内容を共通理解したり、学年全体で評価を書くなど充実を図る。ローテーション授業を実施していくので、授業の持ち時間を年度初めに検討する。</p> <p>②人権学習活動について、「リーダーを中心とした呼びかけ形式によるオープン参加」「年間計画の中で、人権教育担当者以外の教職員も講師として割り当てておく」という方法をとりたい。</p> <p>③他の行事においても地域に貢献できる活動があれば、子どもにも大人にも負担になりすぎないよう配慮しながら、可能な範囲で参加していくことを考える。</p>
<p>②人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。</p>		
<p>③体育祭におけるデカンショ踊りや福祉体験の計画的実施などの地域人材による学習や地域貢献活動により、ふるさと「丹波篠山」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。</p>		
(7)支え愛に満ちた活気あるコミュニティ・スクール	成果と課題	改善策
<p>①ホームページ、学校だより、オープンスクール等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。</p>	<p>○タイムリーに学校からの情報を発信することができた。</p> <p>○生徒会と地域の方々と話し合いをする中で、お互いの生の意見や考え方を共有することができた。</p> <p>○今年度初めて中学校での体験授業を実施しスムーズに行えることができた。</p>	<p>①来年度の小中連携の体験授業と入学予定者説明会を同じ日にし、平日開催とする。</p> <p>②出前授業等を見直していく。</p> <p>③小中連絡会の時期等見直し、中学校側からも小学校のオープンスクール等に積極的に参加し、小学生の様子等の把握に努める。</p> <p>④部活見学や体験については小学校等と協議し考えていく。</p>
<p>②生徒会と学校地域運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来の糸口となる、夢・やりがい・やすらぎ(安全安心)を体感する教育を進める。</p>	<p>●今後学校運営協議会を中心にどう人的物的資源を学校にたいして有効活用できるか考えていかなくてはならない。</p> <p>●小中連携に対して中学校の負担が大きくなってしまふ。引継の情報交換などもっと早い時期や定期的に開催するなど考える必要がある。小学生の部活見学や体験について考える必要がある。</p>	
<p>③学校地域運営協議会の協力のもと、教育課程の評価改善や、人的物的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。</p>		
<p>④小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての学びと育ちの連続性を確立する。</p>		
(8)田ごころで子どもとともに学ぶ教職員組織	成果と課題	改善策
<p>①兵庫県資質向上指標により育成目標を重点化し、学年担任制、一人一研究授業を通じ、保護者や地域の期待に応えられる豊かな人間性、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。</p>	<p>○授業研究や参観日等積極的に実施することができた。</p> <p>○職員会議の中での研修で個々が意識し取り組めた。</p> <p>○部活において木曜日及び土日どちらかをノ一部活にすることが浸透してきている。</p> <p>●非違行為撲滅に向け、いじめ等の問題も含め意識していく。</p> <p>●さらに多忙化の解消のための業務改善を進める。</p>	<p>①授業研究等の更なる充実。</p> <p>②非違行為等をなくし信頼される学校づくりのため個々の意識を高めると同時に研修等を充実させる。</p> <p>③業務の精選を進める。</p> <p>④少しでも早く業務をお任せようとする個々の意識改革とタイムマネジメント徹底。</p>
<p>②法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報化、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。(職員申し合わせ事項の実行)</p>		
<p>③校務の効率的・効果的な実施、会議の効率化(会議資料の事前配布)、ノ一部活デー(木曜日と土日いずれか)や定時退勤日の徹底、記録簿によるタイムマネジメント、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。</p>		